

株式会社小川の庄（製造業）

《20-80 代の社員たちが互いに刺激し合いながらビジネスと村の活性化に成功、ますます発展中》

◆ダイバーシティ経営の背景

- ・「小川村は雪深く冬には仕事がない。雇用を生み出し村が自立するために企業を立ち上げたい。自分たちが汗した農産物に付加価値をつけて販売したい。村人に喜んでもらえるように地域を元気にしたい。」夢と希望と理想に燃えた 40-50 代のメンバーが集結し、1986 年 5 月、同社を設立。
- ・地域の高齢者の雇用創出が大前提であったが、同社はそれを強みに変えた。田舎らしい郷愁のある食べ物をふるまうことが最高のおもてなしと考え、まず 60 歳以上の高齢者 7 名を採用、家庭に伝わる伝統的な味や作り方などお年寄りの知恵をもとに冷めてもやわらかくて食べやすい、同社オリジナル「縄文おやき」を開発、国内外へ販路を拡大している。

◆取組内容

- ・「60 歳入社・定年なし」で高齢者を継続的に雇用。高齢者の勤務は 1 カ月単位でシフト表を作り、勤怠管理を徹底している。各人が一通りの作業を身に付けた“多能工”であるため様々な作業に適応でき、互いに融通を利かせることができる。
- ・最近では 20-30 代の若手社員の採用も進み、インターネット販売やそれに伴う個人情報のセキュリティ保護などを主に担当。その他、力仕事など高齢者をカバーする役割を担っている。
- ・高齢者は二、三手先回りして働き、この気配りに若手は学ぶ。一方高齢者は若手の仕事の速さ、効率の良さ等をほめる。互いの良さを認め合い尊敬しあうことで、仕事を通じて社内のモラルが自然と高まっている。年代は 20 代から 80 代までと非常に幅広いが、高齢者（60-80 代）と若者（20-30 代）、それをつなぐ中間層（40-50 代）のマネジメント層が、適切に役割分担を行い、互いの能力を認めて尊敬し合い、一体感のある職場の雰囲気醸成している。

◆成果

- ・新商品のアイディアは“お年寄りの知恵”から生まれる。それを 50 歳前後のマネジメント層も交え議論しながら改良を重ね、市場が求める"売れる商品"に仕上げる。ただ地域が古くから伝承する食品を提供するのではなく、“お年寄りの知恵”に基づく新商品の緻密な開発が売上増を支えている。
- ・また、創業当初から東京など他地域への販路開拓を指向し、若手社員の入社がきっかけとなって始めたインターネット販売などによる販路拡大で全国展開・海外展開に成功、創業以来売上高はほぼ順調に伸びている。

<企業概要>

設立年	1986 年	資本金	30 百万円
本社所在地	長野県上水内郡小川村高府 2876		
事業概要	食品製造(おやき、漬物、惣菜)		
売上高(※)	730 百万円 (※)直近決算期(2012 年 9 月)		

<従業員の状況(単体)>

総従業員数	80 人
属性ごとの人数等	【障がい者】3 人 【65 歳以上】17 人
正規従業員の平均勤続年数	11 年